

♪ 鳥大附小 研究コーナー ③ ♪

附属中学校、附属幼稚園の研究大会参加

7月6日、7日は、附属中学校と附属幼稚園の研究大会に参加しました。本校が進めている研究が、「幼・小・中」と連続する研究の中の一つでもあることを改めて確認する機会となりました。

附属中学校は、「やりくり」という言葉をキーワードに研究を進めています。これは、「創造する力の育成」というようなことです。本校が研究している各教科・領域それぞれの特有の学びで習得した力が土台となって、附属中学校での「活動を新たに創り出す力」へつながっていくことが明確になりました。

附属幼稚園は、遊びや生活の中での様々な感情体験を通して思考力を育むことを研究しています。各年齢での「思考力の芽生え」の発達を受けて、本校での各教科・領域の特有の学びにどうつないでいくかを視野に入れた研究にしていかなければならないことを認識することができました。

鳥取大学附属4校園は共通テーマのもと研究を進めていますが、各校園と連携しながら、本校は本校の立場での研究を深めていきます。そして、秋の研究発表大会では、そこまでの研究で見えてきたことを発表したいと思います。

研究授業の様子

○プログラミング教育（6月26日）

完田教諭が、4年2組の総合的な学習の時間の中でプログラミング授業を公開し、外部の方々とともにプログラミング教育の研修会を開催しました。今回は、前回（5月11日）の学習の続きとなる学習として、プログラミングソフト「スクラッチ」を使い、問題解決をするための手法をグループごとに話し合いながら探っていくという学習でした。本来、プログラミング教育は、全教科・領域において行われるものと位置づけられています。また、各学年においてどのような力を積み重ねていくべきなのかを明確にする必要性も求められている現状があります。本校のプログラミング教育での系統性のある全体計画を作成し、他校へ発信できるように研究を進めていきます。



○体育科（7月10日）

夏目教諭が、6年2組の体育科で研究授業を行いました。得意・不得意がはっきりと分かれてしまう「とび箱運動」の学習において、単元の後半に「グループとび箱」を取り入れることで、友達と運動の楽しさを感じ、進んで活動に取り組むことができることをねらった授業でした。体育科では、運動の楽しさをとらえる視点として「わかる・できる・かかわる」を合言葉にして授業を展開しています。このように視点を明確にした授業構成が、子どもたちの活動に有効となっているかどうかの検証をしていくことで、他領域での研究にもつながっていくと考えています。



「研究日」

6月25日は完田教諭によるプログラミング研修、7月2日は小玉校長による研究論文の書き方の研修を行いました。

研究発表大会へ向けて、本校の研究をどのような形で提案していくかの検討も進めています。夏季休業中も引き続き「研究日」で研修をするとともに、各職員が研究を深めていきたいと思っています。

（研究主任 多内 京子）